

総則部会

<県研究主題>

学習指導要領の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善

提案 1

提案者 田中 正利（横須賀地区）

<研究主題> 小中一貫教育を通して9年間の子どもの育ちを考える

1 提案内容

小中一貫教育を取り組むことになった経緯と取り組み、今後の展望について

(1) 横須賀市における小中一貫教育について

横須賀市では市教委の主導の下、平成23年度から4中学校区（6小学校）において、小中一貫教育を実施している。

① 小中一貫教育の意義

横須賀市の指導目標である『子どもの学びを豊かにする』ための『中1ギャップ』の解消。

② 小中一貫教育で期待される効果

小中学校が共通に学校教育目標を設定したり、9年間を通した教育課程を編成したりして目標や指導の在り方などが小中学校を貫いていることで、以下の様な効果が期待される。

ア 児童・生徒にとって

・学習意欲・学力向上、自尊感情の回復や高揚、人間関係の不安の減少や問題行動等の発生の件数の減少

イ 教職員にとって

・「9年間で子どもを育てる」という意識の醸成、児童生徒への理解の深まり、授業改善と授業力の向上や小学区と中学校の共通理解の深まり

ウ 保護者にとって

・学校教育への理解の深まり、教職員との信頼関係の向上

(2) 長井中学校区での小中一貫教育

① 長井中学校区は長井小・中の校舎・校庭が隣接しており、豊かな自然環境に囲まれ、一小一中であることで温かい人間関係が形成しやすい。

② 長井小学校における小中一貫教育取り組み当初は、小中一貫教育とは連携とどう違うのかや小中一貫教育が目指すものとは何かとおいう疑問からの出発であった。

③ 小・中学校がつながりを意識した目標や指導の在り方など9年間を見通した教育課程を小中学校の教職員が互いに協議して工夫し、実施することでめざす子どもの姿に迫ろうとしている。

(3) 実際の取り組みは、学習指導、生活指導、小中合同の行事や特別活動関わることや「総合的な学習の時間」における、地域の特性を生かしたカリキュラム作りなど多岐にわたる。

(4) 研究体制について

① 長井小中すべての教師が、教科部と学習指導、総合、生活指導、特活の各部とに所属。

② 月1回、年間12回の担当者会を設け、合同県研修会に向けての企画調整を行う。

③ 長井小中の教師が一堂に会する全体会で、年間活動予定や具体的な取り組みなどを全体に周知する会合。授業研究も含め、今年度は11回行う。

(5.) 乗り越えなければならぬ困難点及び成果と課題

① 成果として挙げられるのは小中の隔たりが小さくなったこと、小中の学習指導の違いへの理解が進んだことや児童・生徒指導における一貫性ができたことである。

② 一方、課題として見えてきたことは子供たちの変容に対する調査・検証や一貫教育の継続である。

2 協議内容

小中一貫教育の今後の課題の解決に向けて

(1) 質疑応答

① 研究主題を踏襲した創意工夫ある提案だったので、県内のいろいろな地区、学校から様々な質問が活発に出された。中でも多かったのはこのような取り組みは教師の多忙化に拍車をかけるのでは、という趣旨の内容だったように感じる。

② 提案者及び横須賀市の同様な取り組みをする他の学校から、質問に対する返答が行われた。はじめは横須賀市の教育行政の施策として行われたが、今では子どもにとってとても意義のある取り組みで、3年の指定研究を終える今年度以降が勝負であるということであった。

(2) 参考意見

川崎市立はるひ野小中学校の例をはじめ、近年の学校を取り巻く様々な社会問題・グローバル化へ対応する教育課程編成と教育活動の工夫・改善点が寄せられた。

3 指導・助言

『中1ギャップ』の解消からスタートした本研究は現代の子どもたちを取り巻く教育問題の一つと考えられる。現行の指導要領においても小・中学校の円滑な接続が重視されており、学力の向上や児童・生徒指導の有効性が期待されている。日本の教育は小学校では小学生らしさ、中学校では中学生らしさが求められる。また、小・中では時間の進み方やテストの重みが違い、それに戸惑う中学生がいることも事実であろう。それらの諸問題を取り除くために長井小学校が取り組んだ6つの取り組みはとても有意義なものとなるであろう。

① 小・中の全教員を研究グループに組み入れ、組織的に動いていること。

② 研究日程を前年度に設定したこと。

③ 児童・生徒指導のための生活のしおりの作成。

④ 授業研究における共通の視点を持ったこと。

⑤ 小学校における小6以外の交流が予定されていること。

⑥ 「総合的な学習の時間」における地域の特性を生かしたカリキュラム作り。

<研究主題>	確かな学力の育成を図る教育課程の編成の工夫・改善
--------	--------------------------

1 提案内容

厚木愛甲地区の教育研究会教務部会では、確かな学力を身に付けるための取組を推進している。

(1) 妻田小学校の実践

『つまだゆめプロジェクト』と称して4つのグループ「まなびふかまる教育」「いのちかがやく教育」「ゆめふくらむ教育」「友だちひろがる教育」に教職員が分かれ、教育課程を工夫しながら実践を進めている。

① 授業改善に取り組んだ校内研究（算数科を通して）

- ・問題解決型の授業展開（問題把握→自力解決→話し合い→まとめ）
- ・研究会の工夫（ワールドカフェ方式により、話が出やすいように工夫）

② 「つまだゆめプロジェクト・まなびふかまる教育グループ」の取組

- ・朝自習の充実（ワークシートの作成、3月には取組を振り返り、次年度に引き継ぐ）
- ・聞き方、話し方の充実（話形を掲示して示すなど、分かりやすく工夫）
- ・学習習慣の確立（家庭学習の手引作成：小中連携）

(2) 成果と課題

○算数の学習に対して意欲的になってきた。→教師のかかわり方で子どもたちが伸びる。

○朝自習では、時間前から児童が準備している。基礎・基本の習得が図られた。

●問題解決型の授業展開にこだわりすぎてしまった。ノート指導や個に応じる指導も検討していきたい。

●学習、朝自習、家庭学習の連携をさらに図る必要があった。

2 協議内容（協議の柱：確かな学力の育成に向けた各校の工夫）

○朝自習では、個に応じた課題に、どのようなに対応したのか。

→学年で話し合っってプリントを用意している。学年で、個に応じたプリントを用意したり、問題数が違うものを用意したりした。担任も個に応じた指導をした。

○確かな学力の育成を図る取組だが、その変容はどのようにみるのか。特に、見えない部分（関心・意欲等）についてはどうか。

→授業の中での子どもの取組をみる。学力としてどの程度みとれるのか難しさもある。

○授業の中でわからない児童からの発言によって、学び合いが深まっていると聞いている。近隣校として研究の様子を伺う中で、児童の説明によって理解が深まっていると感じる。

○授業で何を学び取ったのかという振り返りカードを取り入れると、関心意欲の高まりや思考の深まり等も読み取れるのではないかな。

○家庭学習の手引以外に、中学校と連携していることや作成しているものは。

→児童生徒指導の連携、生活の手引き検討、引き渡し訓練5校連携、授業研究交流。

○家庭学習にあまり協力的ではない家庭への投げかけの工夫はどうしているか。

→子ども自身に明確に課題を示す。1週間の家庭学習の計画を提示する。家庭への直接的な工夫は難しい。まずは子ども自身への意識づけから。

○知識・技能の習得は、どこの学校も苦勞しているところがある。目標としてはあっても、その

方策は具体的に立てることが難しいことも事実。本校では朝読書に継続して取り組むことで力をつけようとしている。

- 経験の浅い職員が増えてきたので育成について検討している。校内研究は、同一学年全学級同時公開とすることで参観しやすくした。朝の会や帰りの会でのスピーチを3年前から継続している。形式を決め過ぎると限界がある。形は大事だが、自由な部分も大切。

3 まとめ

(1) 助言

○確かな学力（目に見えにくい部分の評価）について

- ・まずは学校として、実現状況（子どもたちの姿）を設定することが大切。
- ・子どもたちの振り返り（自己評価、相互評価）に意識、情意の部分も入れていく。

○授業改善について

- ・児童の実態把握に、教師の願いを合わせ、子どもたちが主体的に問題解決に取り組んでいる。これはまさに教育課程の定義と合致している。
- ・学校全体で組織的に取り組むことが大切。組織的に授業改善に取り組むには、校内研究を充実させることが大切。

○協議会の工夫

- ・ワールドカフェ方式により、活発な意見交換ができるようにしたことは、確かな学力の育成につながる。目的を明確にした方式を工夫することが大切である。

○朝自習の取組について

- ・朝自習という場を学校全体として設定している。学校全体の取組となっていることが大切。小学校内での縦のつながりを検討することも大切。

○家庭学習

- ・保護者への周知等、学校全体の取組としているところが大切。9年間の育ちを保障している。子どもたちがやっていて楽しいと思える内容にしていって欲しい。家庭学習に消極的な家庭へは、より具体的な目標を提示し、取り組みやすくする。

※妻田小学校の取組は、カリキュラムマネジメントのPDCA サイクルを組織的に確立している。教職員一人ひとりの意識が、学校全体としての高まりにつながることを大切。

4 全体まとめ

- ・田中先生の提案では、継続という言葉が心に残った。研究委託というものがあるが、委託が終わっても、良いところを引き続き継続していこうとされているところが素晴らしい。
- ・厚木愛甲地区の教育課程研究会は、井上先生の提案にあったワールドカフェ方式で協議を進めたと聞いている。先生方の研究をより良いものにしていこうとする熱い思いを感じた。
- ・教育課程研究会では、何を学ぼうとしているかが大切。自分の地区ではやっていない、できないではなくて、耳を傾けてほしい。取り入れられることは何かを考えてほしい。また、本日の研究内容を、各地区にぜひ戻してほしい。その先頭に立っていただくのが、皆さんです。
- ・学校全体として、組織的に授業改善をいかに図っていくかということが、現在大きく求められている。本日の提案では、そこを具体的に示していただいた。